



ギネス世界記録に認定！

— GUINNESS WORLD RECORDS —

オンラインで丹波栗のモンブランを食べて「ギネス世界記録」達成

昨年12月19日（日）、丹波栗や丹波市をもっと有名にしたいと、市内3校の高校生が丹波栗を用いたモンブランで世界記録に挑むプロジェクトを企画し、見事「ギネス世界記録」に認定されました。

プロジェクトには地元の丹波栗生産者団体や菓子製造会社なども材料調達などで協力。市民らの400人を超える参加者と共に世界記録に挑戦しました。

コロナ禍で1カ所に参加者が集まるのが難しかったため、オンライン会議システム「Zoom」を使い、参加者はそれぞれの自宅などでモンブランを一齐に食べました。

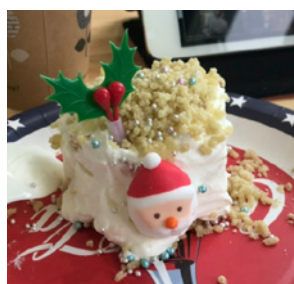
記録挑戦の会場となった丹波の森公苑大ホールに設置したスクリーンに参加者の姿を映し出し、ギネス公式認定員らが、録画をもとに291人が同時に食べたことを確認。会場で公式認定員から記録達成が告げられると、高校生らから拍手が湧き起こるなか「オンラインで同時にケーキを食べた最多人数」記録のギネス公式認定証が贈られました。



高校生が創る 丹波の未来への架け橋プロジェクト

— Challenges of high school students —

我が家のモンブラン



ギネス世界記録にチャレンジした皆さんのモンブラン。
参加者は飾りをつけたりするなど、それぞれに楽しみながら参加しました。

また、会場には参加者から「高校生の皆さんおめでとう!」「高校生たちの活動に感動しました!」など祝福のメッセージが寄せられると、プロジェクトメンバーの高校生も参加者に向けて「やり抜くことができてよかったです。協力していただいた皆さんに本当に感謝しています。」とお礼を述べ、感慨深げに喜びをかみしめていました。

コロナ禍の影響もあり、オンラインでミーティングを行うことも。テスト期間、修学旅行など3校のスケジュールが合わず、全員が集まることができない日もあったが、プロジェクト成功に向けて何度も打ち合わせを行った。



プロジェクトのはじまり

氷上西高校を令和3年春に卒業した生徒が授業で地域ビジネスを学ぶ中、「コロナ禍で活気を失った地元を盛り上げよう」と提案したところからこのプロジェクトは始まりました。

プロジェクトを引き継いだ氷上西高校まちづくり部が「せっかくなら丹波市全域で」と柏原高校と氷上高校にも参加を呼びかけ、昨年4月から3校の有志がプロジェクトチームを結成し、本格的に準備を始めることになりました。しかし、市全体を巻き込むこの企画の挑戦には大きな壁をいくつも乗り越える必要がありました。

当初は巨大モンブランを作る計画

当初は100kgのモンブランを作ることを企画するも、生クリームや栗ペーリストなどの重みでケーキが形を保てないことがわかり、断念することになりました。

次に、モンブランをらせん状に1000個並べ、立体的な巨大ケーキに仕上げることを考えましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止や衛生面の問題から諦めざるを得ませんでした。

何度も試行錯誤を重ねてきた結果、参加者が各家庭でモンブランを作り、オンライン上で同時に食べた人数で記録を目指す方式にたどり着きました。

申請に必要な資金を集める

企画が決まり、次に待ち受けていたのは資金調達の壁。ギネス世界記録の申請や審査、公式認定員の旅費などにかかる費用は約215万円でした。県の助成金や募金活動などに奔走し、市内の企業などに出向き、協賛金を募ったほか、街頭募金活動も実施し、無事に必要な金額を集めることができました。

参加者募集に大苦戦

当初予定していた締め切り日11月26日までに応募があつたのは150人程度でした。参加条件にはインターネットにつながるスマートフォン、タブレット、パソコンが必要。加えてビデオ会議アプリ「Zoom」を使う知識も要り、参加するための条件が複雑になってしまいました。

そのため、スマートフォンの操作を互いに教え合ってもらおうと、企業やグループ、サークルなど、団体参加を呼び掛けました。また、操作方法を解説する動画も制作し、締め切り日を2度も延長するなど柔軟に対応。アプリの使用が難しい人は、市民プラザや芦田集学校で、高校生らがサポートの手配も行つたなど、参加しやすい環境の整備が実を結び、参加申込者を462人まで増やすことに成功しました。



3



1



2

チラシのデザイン、機材の調達、企業等への協力依頼や助成金の申請、施設使用許可などすべて高校生自身で実施。

事前リハーサルでは接続トラブルなども経験。反省会や打ち合わせなどの調整を重ね本番に備えました。



4



5



6



7



8

1. 協力依頼のため林市長を訪問
2. 協力企業との打ち合わせ
3. メンバー自ら施設に許可などの電話
4. チラシ・ポスターの作成
5. 商業施設前での街頭募金活動
6. 商業施設内でモンブランの作り方を実演
7. FM805 たんばでの公開ラジオで告知
8. 直前リハーサルでの反省会

「ネット環境の技術を支援」

たんばコミュニティFM技術部

前川哲和さん(左)・岩間一期さん(右)

支援者 interview



11月上旬にプロジェクトメンバーから「インターネット環境の技術協力をお願いしたい」という依頼があり、引き受けることになりました。

まず、インターネット回線を2つ用意し、当日トラブルが発生しても代替が容易にできるようにするなど、500人規模を収容する回線の技術調査や検討に時間を要しました。

また、時間や場所、人員の制約に加え、生徒が用意したパソコンの仕様もそれぞれ異なり、接続などの技術的な面が非常に難しく、私たちにとても貴重な経験となりました。

リハーサルでは画面表示などで問題が発生することもありましたが、生徒と知恵を出し合い、本番ではスムーズに進行することができ本当に良かったです。

高校生の皆さん、改めて、ギネス達成おめでとうございます。今後の成長と発展に期待をするとともに、このプロジェクトでの出会いに感謝、恩返しをする気持ちで高校生生活を過ごしてください。

「丹波市の底力を感じた」

足立まなさん

参加者 interview



市民プラザでプロジェクトメンバーに出会い、この企画を知りました。メンバーに教え子がいたということもあり、すぐに応募を決めました。参加方法について色々相談をした際にも、迅速に対応してくれたり、ケーキを食べる時の注意点や指示もわかりやすく、気持ち良く参加することができたと思います。

ギネス世界記録挑戦当日は、私も高校生になったような気持ちで、ワクワクしながら自宅で参加しましたが、高校生の皆さんの一生懸命な姿に「若い力って本当にすごいなあ」と心を何度も動かされました。

見事ギネス世界記録を達成し、丹波市の明るい未来を感じることができたことや、高校生の皆さんの喜ぶ姿が見ることができて嬉しかったです。また、丹波栗のおいしさも再認識しました。ギネス世界記録認定に向けて個人や企業で寄付をされた方がとても多く、丹波市の底力を感じました。これからもみんなで色んなことができそうな気がします。